

打瀬網漁をはじめとするさまざまな漁に使われた漁具のほか、海苔養殖関係道具、船大工道具、信仰儀礼用具、帳面など、知多半島の漁業にまつわる資料計1073点が集められています。江戸時代から知多市域の海で漁業が行われなくなつた昭和30年代までのもので、知多地域で行われていた漁撈の文化を伝えていきます。

附
知
多
半
島
の
漁
撈
関
係
帳
面
類
江戸～昭和時代



木
綿
問
屋
関
係
資
料
江戸～昭和時代

梶廻間古窯出土品
平安時代



出土した遺物です。知多半島古窯跡で焼き物の生産が始まつた12世紀前半のもので、また同時に焼成された一括資料であることが特徴に挙げられます。窯での焼成後に製品を取り出さず放棄されたと考えられ、完形や完形に近いものが多く残されています。

歴史民俗博物館

歴史民俗博物館は、昭和30年代の沿岸部埋め立てにより不要となった漁撈用具を収集したのが始まりで、43年に民俗資料館として開館しました。53年に現在地へ移転し、平成11年には歴史民俗博物館として開館しました。

「知多の生業と生活」をテーマとする常設展示の他、展覧会や教室、講座などを開催しています。



打瀬船「藤井丸」は、昭和30年代に現在の西尾市一色町の漁港で進水し、約20年間沿岸で打瀬網漁をしていました。歴史民俗博物館の前身である民俗資料館が53（1978）年に現在地に開館する際に寄贈を受け、以来館内で常設展示されています。打瀬網漁は、横向きの帆に風を受けて、船を横に進めながら網をひき、ヒラメやカレイ、エビ、カニなどを捕まえる方法で、伊勢湾でよく行われました。

打瀬船「藤井丸」



昭和時代



鎌倉時代に現在の名古屋市東区にある長母寺の無住国師が作り、後に寺本(八幡)に伝わったといわれています。正月に全国各地へ行き家々を回る出稼ぎの手段でしたが、現在では主にお祝い事やイベントなどで演じられています。さまざまな種類の演目の万歳があり、そのうち、御殿万歳は太夫1人と才藏4人で演じる、七福神を詠み込んだにぎやかなものです。

尾張万歳

毎年4月の第2日曜日に行われている日長神社例祭「御馬頭まつり」の中で奉納されます。五穀豊穣・雨乞いなどを願い、標具(だし)と呼ばれる造り物を立て、美しい馬具で飾られた農耕馬を神社に奉納するものです。日長や新舞子の各地区から日長神社へ向かう「道中」、引き手が神社神前で受ける「御祓い」、神社石段下の通りで行われる「献馬奉納」で構成されています。

日長の御馬頭



江戸時代の初めごろ、畠を荒らす獅子を梯子で退治したところ翌年から豊作となり、退治した獅子を供養するために始まつたと伝えられています。高さ9mの櫓の上で、2人1組の獅子がお囃子の前奏にあわせて曲芸のような離れ業を繰り広げます。牟山神社(新知)で毎年10月の第1日曜日に奉納されています。

朝倉の梯子獅子



知多市南部から常滑市北部にかけての大野谷13カ村に伝わる行事です。五穀豊穣家内安全の祈願と、戦国時代に滅亡した佐治氏の供養が融合したものといわれています。年末年にかけて当番地区に道場が設けられ、阿弥陀如来などの掛け軸が掛けられる道場供養などが行われます。

知多の虫供養行事

岡田

里組山車(日向車)

江戸時代

屋根に鳥と松、上山部に鳳凰と狛犬、前棚部に龍と虎、仙人など、細やかな彫刻が施されています。上山ではからくり人形5体による「悪源太平治合戦」が演じられます。堂山柱の墨書きによる里組には元禄2(1689)年から山車があつて、その後数回新造されており、現在の山車は文久3(1863)年の建造です。



中組山車(雨車)

江戸時代

壇箱に瀬川治助重定による力人と唐獅子、前山に火炎龍、太平鰐に波など「水」を象徴する彫刻が飾られています。三人遣い人形やからくり人形上演に適した独自の形態と知多型の山車より古い形式を今に伝えています。文化11年(1814)年に建造し、天保10(1839)年に一部改造され現在に至ります。



奥組山車(風車)

江戸時代

屋根部に鶴と松、前棚部に七福神の彫刻を施し、水引幕には龍の刺繡、追幕には牛若丸と天狗の刺繡があります。上山に唐人(幸福人形)が字を書くからくり人形を備えています。上山の上下する方式は中組・里組のような滑車によるものではなく、人力に頼る古い形式です。堂山柱の墨書きによると文久元(1861)年の建造です。



北柏谷

江戸時代

総螺鈿づくりで、六代目・尾張藩のお抱え彫刻師・早瀬長兵衛吉政作の4本柱の巻龍の彫刻や壇箱の近江八景などが箔押し、彩色されています。文化年間(1804~1814)に現在の半田市龜崎の西組で建造され、その後、弘化5(1848)年に半田市板山の大湯組へ譲渡、昭和2(1927)年に北柏谷地区が買い入れ、現在に至ります。

北柏谷山車(花王車)

江戸時代





法海寺 涅槃像

室町時代

釈迦が横になり息を引き取る様子を描いています。中央台座の上の釈迦を中心とし、多くの菩薩や弟子などの人々、鳥や獣、虫、魚までが集まつて、死を嘆き悲しんでいます。上方には釈迦の母親の摩耶夫人が天上界から白雲に乗つてやつて来る姿が描かれています。



金剛界及び胎藏界曼荼羅

室町時代

大日如来を中心とする密教の教えを描いたもので、2つの曼荼羅をあわせて両界曼荼羅といいます。金剛界は悟りを開くための方法が、胎藏界は大日如来の慈悲が伝わっていく様子が表現されています。



御深井焼大花瓶

江戸時代



名古屋城内にあつた御深井窯で焼かれたものと考えられます。尾張藩2代藩主の徳川光友が横須賀御殿に出行いた時に、この地方に3個寄進したうちの1つで、寺本付近の虫供養組が保管していたものです。胴部には「光友」の銘があります。

法海寺

法海寺(八幡)は天智天皇7(668)年の創建で、知多半島で最も古くから続く寺院です。寺宝として県指定文化財3件、市指定文化財11件の、市内最多の計14件の文化財が所在しています。また境内を中心とし、法海寺遺跡が分布し、これまで弥生時代の人骨や古墳時代の玉製品、鉄製品など、貴重な出土品が多数出土しています。

お寺ができる前も、古くから八幡地区の中心地だったといえます。



「玉製品」



寛文6(1666)年の建立で、軸部などの木柄が太く、伝統的な技法を用いた門です。伝門は4本の親柱の前後に8本の控柱を立てた八脚門で、平成21(2009)年に解体修復工事が行われました。

法海寺仁王門

江戸時代

地藏寺

大日如來坐像

鎌倉時代

大日如來としては全国的にも大きく、高さが160cmあります。写実的な表情や立体的に彫られた衣、全身の彩色が特徴です。市指定の薬師如來坐像と一緒に地藏寺大日堂に安置されています。



慈眼院

地藏菩薩立像

平安時代

失われている両腕は、左手で宝珠を捧げ持ち、右手を前に出して錫杖を持つ立つ姿だったと思われます。彩色も落ちてしまっていますが、表情は平安時代後期に彫られたものが良く残っています。



照德寺

阿彌陀如來立像

鎌倉時代

上げた右手と下げた左手のそれぞれ親指と人差し指で輪を作り、表情は非常に穏やかです。人が亡くなるときに極楽浄土から雲に乗つて迎えに来る来迎を表現している、立ち姿の阿彌陀如來です。



大興寺

金銅両界大日如來・聖觀音菩薩懸仏
永仁四年銘

鎌倉時代

大興寺には板に仏の像を貼り付けた懸仏が4面伝わっていて、いずれも鎌倉時代の作品です。そのうち3面には、永仁4（1297）年の年代や、「知多郡大野庄大福寺」の名前が墨書きされており、室町時代に一色範氏が再興し、大興寺と改名する前の寺院の歴史を物語っています。



釈迦如来を中心として「般若経」に関係のある諸尊を集め描いたものです。文殊菩薩、普賢菩薩、深沙大将、玄奘三蔵、婆薮仙、功德天のほか、四天王などが周囲に配置されています。

室町時代

大智院

釋迦十六善神像



写したもので、完成には第1巻の明徳元（1390）年から第600巻の応永3（1396）年まで6年の歳月が費やされました。

卷之三

八社神社

梵鐘（宝治元年在銘）
鎌倉時代

美州不破郡
清冰寺
泰鍛治鐘
寶治元丁未九月廿二日
東大寺大工散位山河助清
衆徒

愛知県内に国重要文化財の指定を受けた梵鐘は3点あり、そのうちの1点です。刻まれた銘から、現在の岐阜県南部に所在していた清水寺のために、宝治元（1247）年に山河助清により作られたことが分かります。年代の判明している鎌倉時代の梵鐘の代表作として貴重なものです。



極樂寺

鰐口（永正六年）

室町時代

如意寺

大般若波羅蜜多經

永正6(1509)年に作られた、青銅製の鰐口です。お寺の軒先に吊り下げ、参拝の際に打ち鳴らして使われたため、表面の中央部の装飾は打ちつぶされています。

尾州智多郡寺本保内泉養山極樂寺鱈口

マメナシ(イヌナシ)

稻荷神社(金沢)のマメナシは、樹高は13mあり、樹齢は170年以上と推定されます。マメナシはイヌナシとも呼ばれ、東海地方でまれにみられる植物です。開花はサクラより1週間ほど遅く、ヤマザクラに似た白い花を咲かせます。



佐布里梅

佐布里地区を中心に栽培されている梅の品種で、2月から3月にかけて薄紅色の花を咲かせ、6月ごろに実を付けます。明治時代初期、佐布里地区内で鰐部亀藏氏によつて作られたとされており、現在市内各地に植えられている佐布里梅は、接ぎ木で増やされた同じ遺伝子型を持つクローネであることが確認されています。



七曲古窯址

平安～鎌倉時代

七曲公園の中に、公園工事のために発掘調査されたA・B・Cの3地区の中で、A地区の1号窯と3号窯が保存されています。1号窯は12世紀末の山茶碗や皿を焼いた窯で、燃焼室から焼成室の下部が、3号窯は13世紀末の甕を焼いた窯で、焚口から煙道部までの床面全長約16mがそれぞれ残っています。現在は建屋で覆われています。



埋蔵文化財

地中に埋まった文化財(埋蔵文化財=遺跡)は、私たちの暮らす土地の歴史や文化を知ることのできる貴重な遺産です。知多市内には旧石器時代から近代までの貝塚や古墳、窯跡、城跡など、約100カ所の遺跡が知られています。

これらの場所では、工事を行う前に届け出を出したり、調査をしたりすることで、遺跡や出土品を後世に残すようにしています。





知多岡田簡易郵便局

明治35（1902）年に建てられた県内最古級の郵便局舎です。この郵便局を通して、出稼ぎの女工さんが手紙を出したり、仕送りをしたりしました。



木綿蔵ちた（旧竹内虎王商店木綿蔵）

木綿問屋の商品倉庫として建設された蔵です。現在は機織り体験や木綿製品の販売を行う「木綿蔵ちた」として活用されています。



江戸時代

八幡神社本殿

知多市の北部に位置する八幡神社は、寺本4力村（堀之内村、廻間村、中島村、平井村）全体を守護する神社で、八幡の地名の起源でもあります。貞享2（1685）年造営の本殿は、三間社流造りの桧皮葺で、基壇となっている石組みはこの地方の伝統的な黒鍬の石工技法で組まれています。

明治25年頃から動力織機が輸入され、織布工場が立ち並ぶ町になります。戦争を挟み、昭和30年代まで知多木綿生産の中心として、最盛期には3000人もの女工さんが働きにぎわいをみせていました。その後、綿織物生産の中心が海外に移り、木綿工場は現在では1社だけとなりましたが、岡田の街の中には当時をしのぶ歴史的な建物が数多く残り、街並み見学や機織り体験が楽しめる場所になっています。

現在、4力所14件の建物が国登録有形文化財に登録されています。

岡田村は、慶長11（1606）年に奥村、中村、里村の3つの村が統合され誕生しました。農家では副業として機織りが行われており、享保年間（1716～1735）に岡田村の中島七右衛門と竹内源助が江戸の木綿貿易問屋（鑑札）を取得し、知多木綿の販路を全国に拡げました。

岡田の古い街並み

文化財は、この土地で人々が営んできた歴史や文化を知る大切な宝物です。長い間伝えられてきた文化財を、次の世代に残していくことは、今を生きる私たちの大切な使命です。



※文化財を守るために、国や県、市が文化財を指定する制度があり、指定された文化財は大切に保護されます。また、指定に至らない文化財についても広く保護するための登録制度もあります。

知多市登録有形文化財(建造物)一覧表

名称	登録年月日	所在地
知多岡田簡易郵便局	H25.3.29	岡田字中谷8
木綿蔵ちた(旧竹内虎王商店木綿蔵)	H26.4.25	岡田字中谷9
旧岡田医院主屋	H27.11.17	
旧岡田医院診療所棟	H27.11.17	
旧岡田医院蔵	H27.11.17	
旧岡田医院道具蔵	H27.11.17	
旧岡田医院給水塔	H27.11.17	
旧岡田医院堀	H27.11.17	
旧中七木綿本店主屋(旧事務所)	H29.6.28	
旧中七木綿本店南蔵	H29.6.28	
旧中七木綿本店長屋門	H29.6.28	岡田字開戸28-1
旧中七木綿本店堀	H29.6.28	
旧中七木綿本店作業所・寄宿舎	H29.6.28	
旧中七木綿本店北蔵	H29.6.28	岡田字開戸28

知多市内指定・登録文化財件表

	建造物	絵画	彫刻	工芸品	書跡 典籍	考古 資料	有形民俗 文化財	無形民俗 文化財	史跡	天 然 記念物	計
国指定	0	1	0	3	3	0	1	1	0	0	9
県指定	0	4	0	2	0	0	1	2	0	0	9
市指定	6	7	15	6	1	1	1	1	1	2	41
国登録	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
合計	20	12	15	11	4	1	3	4	1	2	73

知多市内指定文化財一覧表

名 称		数	種別	区分	指定年月日	所有者(管理者)	所在地
1	八幡神社本殿	1棟	建	市	S51.2.20	八幡神社	八幡字荒古後87
2	知多半島の漁撈用具 附 漁撈関係帳面類	1,045点附28点	有民	国	S47.8.3		
	知多木綿生産用具および木綿問屋関係資料	333点	有民	県	S48.11.26		
	打瀬船「藤井丸」	1隻	有民	市	H24.3.1		緑町12-2(歴史民俗博物館)
	梶廻間古窯出土品	291点	考	市	H26.10.1		
3	涅槃像	1幅	絵	県	S34.1.16	法海寺	八幡字平井19
	金剛界及び胎藏界曼荼羅	2幅	絵	県	S34.1.16		
	紅頬黎色阿弥陀如来図	1幅	絵	県	S34.10.8		
	御深井焼大花瓶	1個	工	市	S51.2.20		
	密教佛具	45点	工	市	S53.11.10		
	鰐口(慶長十六年)	1口	工	市	S53.11.10		
	御深井焼香炉	1個	工	市	S53.11.10		
	諸尊集会図	1幅	絵	市	H10.3.5		
	釈迦十六善神像	1幅	絵	市	H10.3.5		
	不動明王八大童子図	1幅	絵	市	H10.3.5		
	山王本地仏曼荼羅	1幅	絵	市	H10.3.5		
	普賢菩薩坐像	1軀	彫	市	H12.3.9		
	毘沙門天立像	1軀	彫	市	H18.3.1		
	法海寺仁王門	1棟	建	市	H20.12.1		
4	不動明王立像	1軀	彫	市	H12.3.9	常光院	八幡字平井20
5	阿弥陀三尊像	3軀	彫	市	H12.3.9	大乘院	八幡字平井16
6	阿弥陀三尊像	3軀	彫	市	H12.3.9	吉祥院	八幡字平井24
	延命地蔵菩薩立像	1軀	彫	市	S55.5.9	極楽寺	八幡字種池66
7	鰐口(永正六年)	1口	工	市	S55.5.9		
	聖観音菩薩坐像 附 廚子	1軀	彫	市	H18.3.1		
8	聖観音菩薩坐像	1軀	彫	市	H18.3.1	大祥院	八幡字普ケ脇21
9	朝倉の梯子獅子		無民	県	S34.10.8	朝倉梯子獅子保存会	新知字東屋敷(牟山神社)
10	地蔵菩薩立像	1軀	彫	市	H18.3.1	慈眼院	新知字西屋敷15
11	阿弥陀如来立像	1軀	彫	市	H18.3.1	照徳寺	佐布里字向畠22
12	十一面觀世音菩薩立像	1軀	彫	市	S51.2.20	密厳寺	佐布里字地蔵脇24
13	鰐口(明応七年)	1口	工	市	S51.2.20	如意寺	佐布里字地蔵脇13-1
	大般若波羅蜜多經	600巻	書典	市	S51.2.20		
14	七曲古窯址	2基	史	市	H3.3.15	知多市	八幡字池下(七曲公園)
15	里組山車(日車)	1台	建	市	H3.2.27	岡田里組	岡田字海渡
16	中組山車(雨車)	1台	建	市	H3.2.27	岡田中組	岡田字高見
17	奥組山車(風車)	1台	建	市	H3.2.27	岡田奥組	岡田字堂山
18	日長の御馬頭		無民	市	H25.2.15	日長の御馬頭保存会	日長字森下4(日長神社)
19	マメナシ(イヌナシ)	1本	天	市	S53.3.7	稻荷神社	金沢字稻荷山32
	大日如来坐像	1軀	彫	市	H18.3.1		
20	金銅熱田五社明神本地懸仏	1面	工	県	H29.2.10	大興寺	大興寺字落田47
	金銅両界大日如来・聖観音菩薩懸仏 永仁四年銘	3面	工	県	H29.2.10		
21	梵鐘(宝治元年在銘)	1口	工	国	S34.12.18	八社神社	金沢字郷中33-1
	北粕谷山車(花王車)	1台	建	市	H20.4.1		
22	大日如来坐像	1軀	彫	市	S48.10.20	地蔵寺	大草字東屋敷43-1
	薬師如来坐像	1軀	彫	市	S48.10.20		
23	釈迦十六善神像	1幅	絵	市	H10.3.5	大智院	南粕谷本町1丁目197
	地蔵菩薩立像	1軀	彫	市	H12.3.9		
24	尾張万歳		無民	国	H8.12.20	尾張万歳保存会	
25	知多の虫供養行事		無民	県	S58.9.14	大野谷虫供養保存会	
26	熊野觀心十界図及び那智參詣曼荼羅	2幅	絵	市	H30.12.5	北粕谷区	
27	佐布里梅	1種	天	市	R1.10.10	知多市	
	絹本著色普賢菩薩像	1幅	絵	県	S29.2.5	個人	
	癡絶道冲墨蹟(淳祐甲辰七月四日)	1幅	書典	国	S17.6.26	個人	
	染焼黒茶碗(大黒)〈長次郎作〉	1口	工	国	S28.3.31	個人	
	石溪心月墨蹟(石牋墨蹟跋宝祐甲寅結制後三日)	1幅	書典	国	S31.6.28	個人	
	紙本墨画政黄牛図	1幅	絵	国	S34.6.27	個人	
	古今和歌集巻第九断簡(端牋)〈伝俊頼筆/(甲斐国に)〉	1幅	書典	国	S34.12.18	個人	
	古伊賀花生(芙蓉)	1口	工	国	S49.6.8	個人	
	阿弥陀後仏紅幘	1幅	絵	市	R6.3.1	龍雲院	緑町12-2(歴史民俗博物館 寄託)

建 = 建造物、絵 = 絵画、彫 = 彫刻、工 = 工芸品、書典 = 書跡典籍、考 = 考古資料、有民 = 有形民俗文化財、無民 = 無形民俗文化財、史 = 史跡、天 = 天然記念物